

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第5部門第2区分
 【発行日】平成23年4月28日(2011.4.28)

【公表番号】特表2007-512486(P2007-512486A)
 【公表日】平成19年5月17日(2007.5.17)
 【年通号数】公開・登録公報2007-018
 【出願番号】特願2006-540526(P2006-540526)
 【国際特許分類】

F 1 6 L 15/04 (2006.01)

【F I】

F 1 6 L 15/04 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年3月10日(2011.3.10)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0025】

- 溝は、当初、略円筒形の中央部分によって分けることが可能である少なくとも二つの曲面の部分からなり、この場合、この部分は、当初、例えば約2mmと約20mmの間で、略同一の曲率半径を有する。もし、少なくとも一つの管要素がグレートリング管の一部を形成するならば、溝は、当初、溝の底部での材料断面積が結合されている第1及び第2管要素での管の一般部分の最小断面積と引張応力下での継手効率との積より大きくなるように選択される最大値を有する半径方向の深さを持つ。すなわち、溝(G1)の底部での断面積が、第1管要素の雄ネジ(FM)が形成された部分と非ネジ部分との境界断面におけるネジ底面での断面積よりも大きく、又は、第2管要素の雌ネジ(FF)が形成された部分と非ネジ部分との境界断面におけるネジ底面での断面積よりも大きくなるように、選択される半径方向の深さ(H')を持つ。用語“管の一般部分”はその二つの端部から遠い中央部分を示し、略一定の直径を有している。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0034

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0034】

- 第2管要素は、管又はその他の略対称的な雌/雌型接続スリーブの一部を形成する(第1管要素は、この場合、管の先端で結びつけられる)。スリーブの場合、前記スリーブは、外側面にわたって当初形成され、二つの第2管要素によってそれぞれ両側に延伸された中央部分からなり、この領域の範囲内のスリーブの当初断面積が、第1管要素に形成された端部で、管の一般部分の断面積と継手効率との積より大きく、又は等しくなるように選択される厚みを減少した部分を有する。すなわち、スリーブは、外側面にわたって当初形成され、二つの第2管要素によってそれぞれ両側に延伸された中央部分からなり、この領域の範囲内のスリーブの当初断面積が、第1管要素の雄ネジ(FM)が形成された部分と非ネジ部分との境界断面におけるネジ底面での断面積よりも大きく、又は等しく、もしくは、第2管要素の雌ネジ(FF)が形成された部分と非ネジ部分との境界断面におけるネジ底面での断面積よりも大きく、又は等しく、なるように、選択される厚みを減少した部分を有する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0056

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0056】

本発明による継手の第1形態を説明するために、まず図1から図8を参照する。この例は、特に図1に部分的に記載されているように、継手は2つの管T1及びT2を接続させる。2つの管は、回転によって生成されるXX軸を持ち、とても長い、すなわち数メートルの長さがあり、さらに特定すると、第1管T1の雄型端部EM（又は雄管要素）及び第2管T2の雌型端部EF（又は雌管要素）がある。図の形態で示されているように、管T1及びT2は、例えば、共通の部分を持ち、約193.68mm（又は7 5/8インチ）に等しい初期外部直径を有している。管の一般部分は二つの端部から離れた中間部分で、略一定の直径を有している。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0070

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0070】

例えば、溝G1は、約2mmに等しい軸の長さPR'、約1mmに等しい半径方向の深さH'、そして約5mmに等しい曲率半径を有している曲線部分C1及びC2にわたって延びている中間部分PCからなる。溝G1の半径方向の深さH'は、前記溝の対称平面PSGの領域で、通常管T2の厚みによって制限されており、その厚みはネジ継手の臨界断面積を計算するために使用される最小限の厚みよりも少なくはならない。より特定すると、半径方向の深さH'の最大値は、溝G1の底の材料の断面積が管T1又はT2の一般部分（又はもしそれらが異なる場合、これら二つの部分のより小さい方）の断面積と引張応力下での継手効率との積より大きくなるように選択される。すなわち、半径方向の深さH'は、溝（G1）の底部での断面積が、第1管要素の雄ネジ（FM）が形成された部分と非ネジ部分との境界断面におけるネジ底面での断面積よりも大きくなるように選択される。ネジ要素の境界断面積と管（T1、T2）の断面積の間の比率は、接続（又は継手）の効率を特徴づけ、そしてそれは管の断面積と共に、一連の管をデザインするための入力データの項目になる。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0110

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0110】

この三日月形G2により、スリーブMの厚みとその最大厚み部分で減少され、それによって、拡張圧力及び力が減少される。また、拡張後（回転によって生成された外側面）略直線の外観で同時に継手を供給している間、変形により、様々な当接面（SB1からSB4）及び支持面の範囲で上手くコントロールされる。それによって、対称平面PSMの範囲内でのスリーブMの断面積は、第1管要素が形成された端部で、管T1及び管T2の一般部分の断面積と継手効率との積より大きいもしくは同等なるように選択されなければならない。すなわち、対称平面PSMの範囲内でのスリーブMの断面積は、第1管要素の雄ネジ（FM）が形成された部分と非ネジ部分との境界断面におけるネジ底面での断面積よりも大きく、又は等しく、もしくは、第2管要素の雌ネジ（FF）が形成された部分と非ネジ部分との境界断面におけるネジ底面での断面積よりも大きく、又は等しく、なるよ

うに選択されなければならない。